

2015年度 国立がん研究センター研究開発費 評価部会 分野総括 (発がん・がん生物学分野)

課題一覧	
26-A-1 金井 弥栄	ナショナルセンターバイオバンクネットワークプロジェクト等連携に参画する国立がん研究センター等バイオバンクの整備と運用
26-A-6 柴田 龍弘	がん情報生物学・生物統計学研究基盤の構築
26-A-7 落合 淳志	これからの病理診断の均てん化、及び質的向上等のための基盤・新規技術開発
26-A-8 今井 俊夫	環境要因等のがんの発生要因及び予防法開発に関する研究領域
26-A-9 近藤 格	希少がんの全国規模の研究基盤構築による研究の推進
26-A-10 北林 一生	臨床試験導出に至る工程に関して明確な構想を持つ新規革新的治療薬の開発
26-A-11 青木 一教	国立がん研究センターにおける臨床試験等に付随して行う、治療効果や抵抗性の本態解明に基づく創薬・個別化医療開発
26-A-12 安永 正浩	次世代抗体医薬の開発に基づく新規治療法開発支援のための基盤整備
25-A-1 吉田 輝彦	希少がんの発生に関与する遺伝要因の解明のための多施設共同研究体制の構築と関与遺伝子の探索
25-A-2 岡本 康司	がんの代謝異常（メタボローム異常）に基づく革新的治療法の開発
25-A-3 谷内田 真一	高速シーケンス解析技術を応用した血中・体液中の遊離核酸によるがんの高感度分子診断法の基盤確立
25-A-4 中島 健	生体細菌叢のメタゲノム解析を用いた先駆的アプローチによる腫瘍発生メカニズムに関する基盤研究
25-A-5 戸塚 ゆ加里	胆管がん等の職業性発がんの原因解明と発がんリスク評価に資するバイオマーカーの開発
25-B-3 上條 岳彦	網羅的解析による神経芽腫の標的分子・機構の同定と臨床・分子情報データベース基盤構築

頂いたご意見

- 分野全体からみると、希少がん、メタボローム異常、遊離DNA解析、メタゲノム解析、オミックス解析などなど、世界中が重要と考え海外で取り組んでいる姿を見てから日本でもやっているという感じが大きい。概して網羅的解析になり、日本人が材料であるだけで、結果はその他大勢と同じになってしまい、研究開発というよりも物まね、技術導入に終わっている。これらを駆使して独自の問題解決の姿勢が必要である。この方向とは逆に、日本独自の問題を取り上げ、その解決のために既存の技術を使って、あるいは技術開発を行って解析し、ユニークな結果を出して行く姿勢も必要である。その点、25-A-5はこのタイプの研究として評価できる。
- NCCのミッションを的確にとらえた中長期的なビジョンのもとに、ナショナルセンターとしての役割を果たす体制を、着実に築き成果をあげつつある点は高く評価できる。長期的な視点にもとづいて息長く続けることで、初めて研究開発の基盤は整備されるものであり、なお一層の努力を継続されたい。今後は、ナショナルセンターとして、NCC内部のみならずNCC外部の研究機関・研究者に対する、より一層の透明性と実効性のある支援に結び付けて、我が国のがん研究全体の発展にさらに寄与することが望まれる。
- 当該開発研究の開始の第1年目においては、ほぼ全ての課題で、一体どのような進捗を経て成果へと繋がるのかが具体的にイメージできない課題もあったというのが本音であった。しかし、第3年目（第2年目も含め）の研究の多くで目に見える重要な成果が出てきている。萌芽的な内容の課題も含め、NCCで実施されるに相応しい出口を見据えた、換言すると、がん患者のための研究が実施されており、高い成果へと結実することを大いに期待する。

2015年度 国立がん研究センター研究開発費 評価部会 分野総括 (TR・早期開発分野)

課題一覧	
27-A-1 河野 隆志	個別化医療のためのクリニカルシークエンス基盤整備に関する研究
27-A-2 吉村 清	がん免疫細胞療法の臨床導入に向けた基盤整備に関する研究
26-A-3 落合 淳志	拡張型コアファシリティ機能による、TR/リバースTRの総合支援を含む研究・開発支援
26-A-5 土井 俊彦	がん治療の早期開発試験及びその研究体制確立に関する研究
26-A-13 山田 哲司	個別化がん医療を目指した新規バイオマーカーの開発：基盤整備と実用化
26-A-14 松村 保広	ナノテクノロジーを応用したがん新薬開発基盤研究
26-A-15 牛島 俊和	エピジェネティクスを標的とした予防・診断・治療法開発基盤の構築
26-A-16 石井 源一郎	がん組織代謝システムに関わる基礎情報をもとにした、新しいがん生物像の解明と治療法の開発
26-A-17 金子 和弘	内視鏡機器開発臨床試験体制基盤確立に関する研究
26-A-18 伊丹 純	病院設置型加速器ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)システムの開発に関する研究
26-A-19 小嶋 基寛	先端的TR研究に対応する病理標本を用いた標準化研究
26-A-20 濱田 哲暢	未承認薬の早期臨床開発試験における薬物動態・薬力学解析・薬理遺伝学解析の標準化に関する研究
26-A-21 西田 俊朗	希少がんに対するTR/早期開発研究体制の基盤整備に関する研究
25-A-6 土原 一哉	生物学的特性に基づくがん最適化医療開発プラットフォーム（機能解析等多目的細胞株バイオリソース構築とその分子プロファイリング等）
25-A-7 中面 哲也	新規免疫療法の臨床応用へ向けた基盤整備に関する研究
25-A-8 伊藤 雅昭	革新的手術機器と手術手技に関する外科早期臨床開発体制の整備
25-A-10 秋元 哲夫	陽子線治療の有効性検証を目的とした多施設臨床試験の実施とその体制整備
25-A-11 中村 達雄	再生医療のがん治療応用を目指した基盤整備に関する研究
25-B-9 木下 貴之	早期乳癌へのラジオ波熱焼灼療法（RFA）の有効性の検証と標準化に向けた多施設共同研究

頂いたご意見

○ AMED等他の研究開発費も多く獲得している課題があるが、研究開発費の使用状況がどうなっているのか。研究開発費の支援を受けた研究としてもっと論文に標記すべきである。

○ 研究の成果がわかりにくい報告が多い。研究期限のついたものでは最終年度まで評価しにくい傾向がある。班研究で行うメリットを具体的に示してほしい。

○ 研究全体を通してゲノムの包括的解析から様々のがん腫の遺伝子異常を発見し、それを臨床研究につなげる基盤整備が徐々に進んでおり成果がみとめられる。NCCなど本邦のアカデミア発のシーズを中心に有効な治療法を開発するシステムが確立されるため、研究をさらに推進して欲しい。また、陽子線など既存の治療法の有効性を明確することも重要である。

○ 全体的にはNCCとしての役割を果たしていると考え。しかし、多くの場合、世界でやっているから、自分たちもやっているという受動的な姿勢が気になる。既知の技術、知見の開発者、発見者が世界をリードしているので、世界中が後追いしている中においては、物まねに終わってしまう。問題解決のための自らの発見なり技術開発があり、それを生かすために、世界ではやっている既技術なり、知見を使うのであるという主体的な姿勢が必要である。

○ 「基盤整備」、「体制整備」という共通した中心課題について言及されていない印象が強い。

2015年度 国立がん研究センター研究開発費 評価部会 分野総括 (後期開発・支持療法分野)

課題一覧	
27-A-3 内富 庸介	支持療法の開発および検証のための基盤整備
26-A-4 飛内 賢正	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究
26-A-22 福田 治彦	共同研究グループ間およびがん診療連携拠点病院間の連携によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究
26-A-24 小林 幸夫	難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究
26-A-25 鈴木 茂伸	小児がんに対する標準的治療確立のための基盤研究
26-A-26 福田 隆浩	同種造血幹細胞移植治療確立のための基盤研究
26-A-27 曾根 美雪	IVRの開発と標準化のための基盤研究
26-A-28 伊藤 芳紀	質の高い放射線治療の普及と均てん化のための基盤研究
26-A-29 大江 裕一郎	サポーターケアの提供体制と有用性評価の研究
25-A-12 斎藤 豊	内視鏡治療の成績、予後、バイオバンク等の情報を統合する総合的研究基盤の整備
25-A-13 寺内 隆司	標準化画像診断手順に従ったがん治療効果判定に関する研究
25-A-22 木下 寛也	がん患者医療情報の高度活用による終末期医療・在宅医療の全国実態調査に関する研究
25-B-2 田原 信	進行頭頸部がんに対する化学放射線療法を中心とした集学的治療の開発に関する研究共同研究
25-B-4 橋 英伸	放射線治療多施設共同試験における包括医学物理検証体制の構築と投与線量の品質保証に関する研究
25-B-5 清水 千佳子	進行・再発がん患者の治療方針決定における意思決定支援モデルの確立に関する研究
25-B-7 濱口 哲弥	超高齢化社会における治癒困難な後期高齢がん患者に対する標準治療の確立および個別化への応用に関する臨床研究
25-B-8 高橋 進一郎	Borderline resectable膵癌の治療法確立に関する多施設共同研究

頂いたご意見

- 今後の発展が期待される研究と、研究の進捗に不安なものもある。3年目終了時点で慎重な判断が必要である。
- 支持療法についての臨床試験以外の課題はヘルスリサーチ(4領域)で扱った方が近いものも多いように思う。

- NCCとして評価でき、今後の継続を支持する研究
 - ① 臨床研究の基盤整備
他施設共同試験の支援業務
がんをターゲットとした治療：JCOG
支持医療： 支持療法開発センター、J-SUPPORT
今年度から始まったプロジェクトであるが、支持療法のJCOG版として期待している。日本の支持医療の遅れをとりもどす重要なプロジェクトと考える。
 - ② 放射線診断・治療の質の保証のための監査・教育
放射線学会、放射線腫瘍学会との連携で実施していく体制を整備する
 - ③ 標準的な治療として確立していない領域の臨床試験の整備（コンセプト、施設認定・監査、研究者の育成）IVR
 - ④ 希少がん、小児がん、難治がんの臨床研究支援：現在やられている他の試験を把握しつつ、体系的に研究の方向性を示し、リー役をNCCがとることが望ましい。

NCC以外でもよいと思われる研究

- ① 個々のがん種の前向き治療試験
- ② 特定のがん種における登録業務～関連学会、行政とのすみ分けや協働を考える
- ③ サポーターケアに関する研究は、調査にとどまり、一般化できるようなケアの実践に役立つものが出るか、出口がみえないので評価が難しい。調査だけであれば、NCCでしかやれないものは少ないのではないかと考える。
また、これらに関する調査は、以前から複数回やられているはずであり、また、厚労科研費等で同様の研究がなされていて、それらの研究成果が、現在NCCで実施されている研究に反映されていない。NCCはがん研究のnationalの機関であることを考えると、いままでやられた、あるいは現在進行中の他の研究を俯瞰的にみて、NCCでやるべき研究を検討すべきと考える。

2015年度 国立がん研究センター研究開発費 評価部会 分野総括 (疫学・情報・ヘルスリサーチ分野)

課題一覧

27-A-4 笹月 静	科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究
27-A-5 松田 尚久	既に実用化されている診断法や新たに開発された早期発見手法の検診への導入を目指した有効性評価に関する研究
26-A-2 津金 昌一郎	多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究
26-A-30 斎藤 博	検診ガイドライン作成と検診提体制の政策提言のための研究
26-A-31 山本 精一郎	予防・検診の普及啓発に関する事業的研究
26-A-32 東 尚弘	わが国におけるがん登録の整備に関する研究
26-A-33 高山 智子	がん情報の収集と効果的な活用、そして評価のあり方に関する研究
26-A-34 加藤 雅志	がん対策の推進に資する診療支援と研修のあり方に関する研究
25-A-14 岩崎 基	バイオマーカーを用いた発がんリスク診断・前がん状態診断の実用化に関する研究
25-A-16 溝田 友里	生活習慣指導・栄養処方などによるがん再発予防に資するエビデンス構築のための患者コホート研究
25-A-18 高橋 都	充実したがんサバイバーシップに向けた多角的支援モデルの開発に関する研究
25-A-19 望月 友美子	包括的たばこ規制の推進のための研究基盤体制の構築及び新規研究領域の開拓に関する研究
25-A-20 石川 ベンジャミン 光一	患者の経時的な診療経過の分析に基づくがん診療コストに関する研究
25-A-21 東 尚弘	がん臨床情報データベースの構築と、その活用を通じたがん診療提供体制の整備目標に関する研究
25-B-10 野澤 桂子	がん患者の外見支援に関するガイドラインの構築に向けた研究

頂いたご意見

- がん登録やがん情報の収集に関するものは、研究というよりは日常業務と見なされるものが多い。今回の組織改編を機に研究開発費の仕組みも再考していただきたい。
- 事前に送付されてくる年次報告書、総合研究報告書は、非常に読みづらい。可能であれば事前に、直前でもよいから、すべてでなくてよいから、当日のスライドを送付してほしい。
- 総じてレベルは高く評価できる。一部には研究なのかNCCとしての事業なのか、分からないものもあった。今後、全国がん登録データを活用（DPCなどとのリンケージを含む）した研究を期待する。